

■ 概況

11/28~12/4のNYMEX・WTIは、55.17~58.43ドルの範囲で推移した。

12月5日は、ウイーンでOPEC総会が開催され、減産拡大への期待感から買いが先行したが、次第に様子見ムードが高まり、高値での利食い売りもあって、前日比横ばいで終わった。1月限終値は前営業日比横ばいの58.43ドル。

週末6日は、前日に続き、OPECプラスの閣僚級合同会議が開催され、現行減産合意の2018年10月生産実績比120万b/dの減産に加え、2020年1月から追加50万b/dの減産が合意されたことを好感して、値上がりした。なお、2020年4月以降の取り扱いについては、3月上旬の閣僚監視委員会・合同会議に先送りされた。ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は663基と前週比5基減と7週連続の減少となった。1月限終値は前比0.77ドル高の59.20ドル。

週明け9日は、前日発表の11月の中国貿易統計で輸出額が前年同月比1%減と4か月連続の減少、対米輸出額は23%と激減したことから、反落した。OPECプラスの減産拡大による買いの一巡後は、利益確定売りも出やすかった。1月限終値は前週末比0.18ドル安の59.02ドル。

10日は、米国による対中制裁関税第4弾が回避される見通しであるとの報道で、米中貿易摩擦緩和への期待感から、反発した。米国株価も回復し、同様のリスク商品である原油先物も買いが入った。1月限終値は前日比0.22ドル高の59.22ドル。

11日は、米国エネルギー情報局(EIA)の原油在庫週報で、原油が前週比80万バレル増と市場予測に反する積み増し、ガソリン・中間留分も市場予測を大きく上回る積み増しの報

告あり、反落した。1月限の終値は前日比0.48ドル安の58.76ドル。

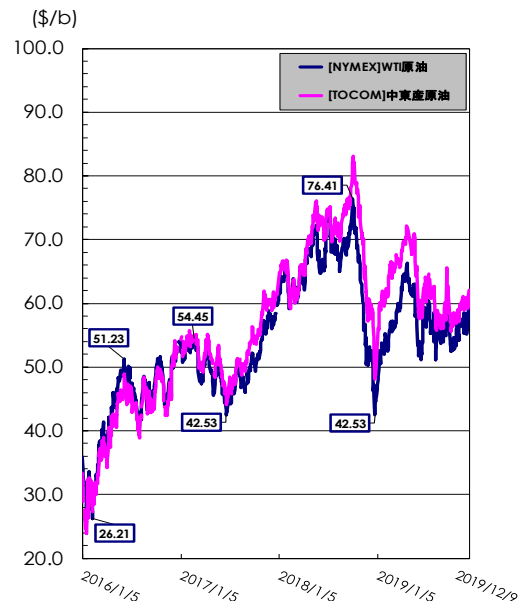
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は11月28日~12月4日の間60.60~63.40ドルの範囲で推移した。12月5日62.50ドル、6日63.10ドル、9日63.60ドル、10日63.90ドル、11日63.70ドルで推移した。

為替は11月28日~12月4日の間108.57~109.68円の範囲で推移した。12月5日108.90円、6日108.81円、9日108.60円、10日108.67円、11日108.78円で推移した。

財務省が12月6日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月中旬の原油輸入平均CIF価格は、44,222円/klで、前旬比471円安、ドル建て64.62ドルで前旬比0.82ドル安。為替レートは1ドル/108.80円だった。

そのような中で、12月9日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.3円の値上がり、灯油は同4円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン・軽油が6週連続の値上がり、灯油は2週ぶりの値上がりだった。この週(12月第2週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の値下げとなった。

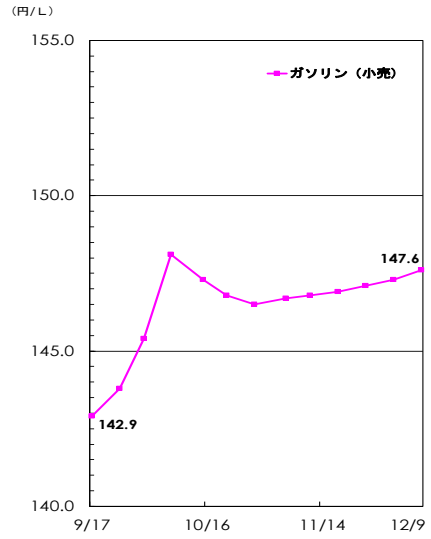
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/1 ~ 12/7	3,536 ▼ -10	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.3 ▼ -0.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/7	11,664 ▲ 536	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/9	62.05 ▲ 2.86	▲ 2.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/9	59.02 ▲ 3.06	▲ 8.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月中旬	64.62 ▼ -0.82	▼ -17.09
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,222 ▼ -471	▼ -13,858
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.80 ▼ -0.22	▲ 4.20
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/9	109.60 ▲ 1.08	▲ 3.92



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/1 ~ 12/7	952 ▲ 25	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	856 ▲ 65	▼ -	
	輸出	"	130 ▲ 27	▲ -	
	在庫	12/7	1,481 ▼ -34	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/3 ~ 12/9	60.1 ▲ 0.8	▲ 2.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/3 ~ 12/9	56.1 ▲ 0.3	▲ 3.0
		(TOCOM/中部)	12/9	59.5 ▲ 2.0	▲ 4.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/9	147.6 ▲ 0.3	▼ -1.7	

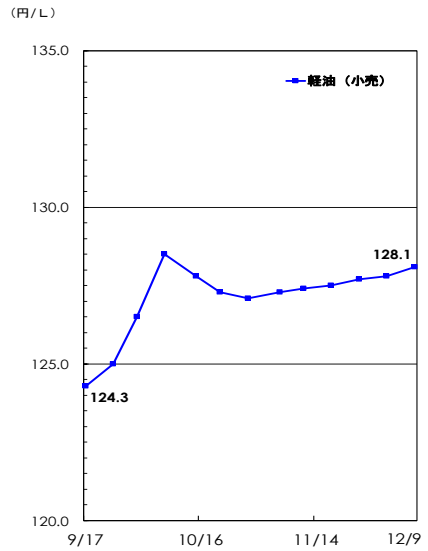
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

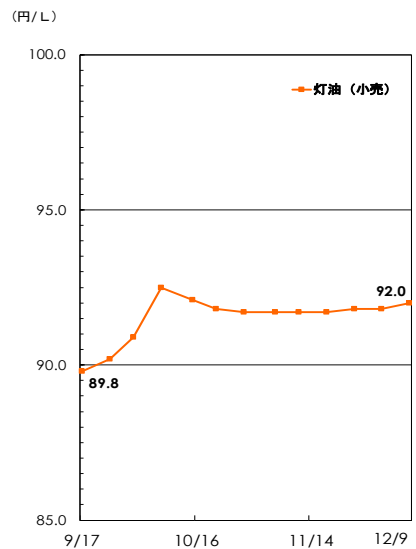
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/1 ~ 12/7	847 ▲ 94	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	728 ▲ 126	▼ -	
	輸出	"	182 ▲ 30	▲ -	
	在庫	12/7	1,499 ▼ -63	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/3 ~ 12/9	63.1 ▲ 0.9	▲ 1.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/3 ~ 12/9	65.0 ▲ 0.6	▲ 2.3
		(TOCOM/中部)	12/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/9	128.1 ▲ 0.3	▼ -1.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/1 ~ 12/7	321 ▼ -46	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	421 ▲ 18	▲ -	
	輸出	"	39 ➡ 0	▲ -	
	在庫	12/7	2,622 ▼ -138	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/3 ~ 12/9	63.2 ▲ 1.0	▲ 3.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/3 ~ 12/9	61.0 ▲ 0.4	▲ 2.6
		(TOCOM/中部)	12/9	63.6 ▲ 1.6	▲ 4.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/9	92.0 ▲ 0.2	▼ -1.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月11日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報での原油が前週比80万バレル増と市場予測(同280万バレル減)に反する積み増し、ガソリン・中間留分も市場予測を大きく上回る積み増しの報告で、供給過剰感が高まり、反落した。米中貿易交渉の行方についても、慎重な見方が依然根強かった。1月限の終値は前日比0.48ドル安の58.76ドル、2月限の終値は同0.49ドル安の58.65ドル。

EIAによると、12月9日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.4セント値下がりの1ガロン2.561ドル(74.1円/ℓ)、

ディーゼルは同2.1セント値下がりの3.049ドル(88.2円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年12月1日～12月7日に休止したトッパー能力は7.1万バレル/日で、前週に対して6.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は353.6万klと、前週に比べ1.0万kl減少。前年に対しては5.1万klの減少。トッパー稼働率は90.3%と前週に対して0.2ポイントの減少、前年に対しては1.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.7%増、ジェット/0.2%減、灯油/12.4%減、軽油/12.5%増、A重油/28.3%増、C重油/22.2%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は18.2万kl(前週比3.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比で全油種で増加となった。前年比ではジェット、灯油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は85.6万kl(対前週8.1%増)と2週振りで増加となり、16週連続で100万klを下回った。ジェット17.0万kl(対前週297.7%増)、灯油42.1万kl(対前週4.3%増)、軽油72.8万kl(対前週20.9%増)、A重油20.7万kl(対前週19.5%増)、C重油20.9万kl(対前週8.2%

増)。

(単位:千KL)

	今週 (12/1 ~ 12/7)	前週 (11/24 ~ 11/30)	前週比	
ガソリン	856	791	▲ 65	(8%)
ジェット燃料	170	43	▲ 127	(295%)
灯油	421	403	▲ 18	(4%)
軽油	728	602	▲ 126	(21%)
A重油	207	173	▲ 34	(20%)
C重油	209	193	▲ 16	(8%)
合計	2,591	2,205	▲ 386	(18%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月7日時点の在庫は、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは148.1万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては21.4万kl少ない。

灯油は262.2万kl、前週差13.8万kl減。前年に対しては18.3万kl少ない。

軽油は149.9万kl、前週差6.3万kl減。前年に対しては25.9万kl少ない。

A重油は70.7万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては16.0万kl少ない。

C重油は205.4万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては6.9万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (12/7)	前週 (11/30)	前週比	
ガソリン	1,481	1,515	▼ -34	(-2%)
ジェット燃料	923	962	▼ -39	(-4%)
灯油	2,622	2,760	▼ -138	(-5%)
軽油	1,499	1,562	▼ -63	(-4%)
A重油	707	713	▼ -6	(-1%)
C重油	2,054	2,047	▲ 7	(0%)
合計	9,286	9,559	▼ -273	(-2.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月3日～9日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、12月3日～9日の間、ガソリン113～114円台でわずかに値上がり後戻り、軽油62～63円台で値上がり、灯油62～63円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114～115円台で値上がり、軽油65円台でわずかに値上がり、灯油60～61円台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～110円台で大きく値上がり、軽油65円台で横ばい、灯油60～61円台で値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社0.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月3日～9日の製品スポット市況は、11月26日～12月2日平均と比べ、全ての油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(12/3～12/9、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.3円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。

12月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (12/3～12/9)	前週 (11/26～12/2)	前週比
レギュラー	60.1	59.3	▲ 0.8
灯油	63.2	62.2	▲ 1.0
軽油	63.1	62.2	▲ 0.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (12/3～12/9)	前週 (11/26～12/2)	前週比
レギュラー	56.1	55.8	▲ 0.3
灯油	61.0	60.6	▲ 0.4
軽油	65.0	64.4	▲ 0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/3～12/9実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.5
灯油	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 0.7
軽油	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 0.8
A重油	▲ 0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の147.6円、軽油は同0.3円高の128.1円、灯油は18%ベースで同4円高の1,656円(1%ベースでは同0.2円高の92.0円)。ガソリン・軽油は、6週連続の値上がりで、灯油は2週ぶりに値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが31都道府県、横ばいが6県、値下がりが10府県となった。全国最安値は徳島県の142.0円(前週比1.4円高)、その次に安いのは、香川県の142.1円(同0.1円高)、最高値は長崎県の157.7円(同0.2円安)。最も値上がりしたのは1.6円高の滋賀県

(145.4円)、横ばいは高知県等6県、最も値下がりしたのは0.8円安の福島県(148.5円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりしたが、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。今週は、原油価格は値下がりし、為替レートも円高となり、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。ただ、これまでの卸価格の値上がり分の転嫁に時間がかかっていることから、次週(12月16日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/9)	前週 (12/2)	前週比	直近高値
レギュラー	147.6	147.3	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	92.0	91.8	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	128.1	127.8	▲ 0.3	08/8/4 167.4

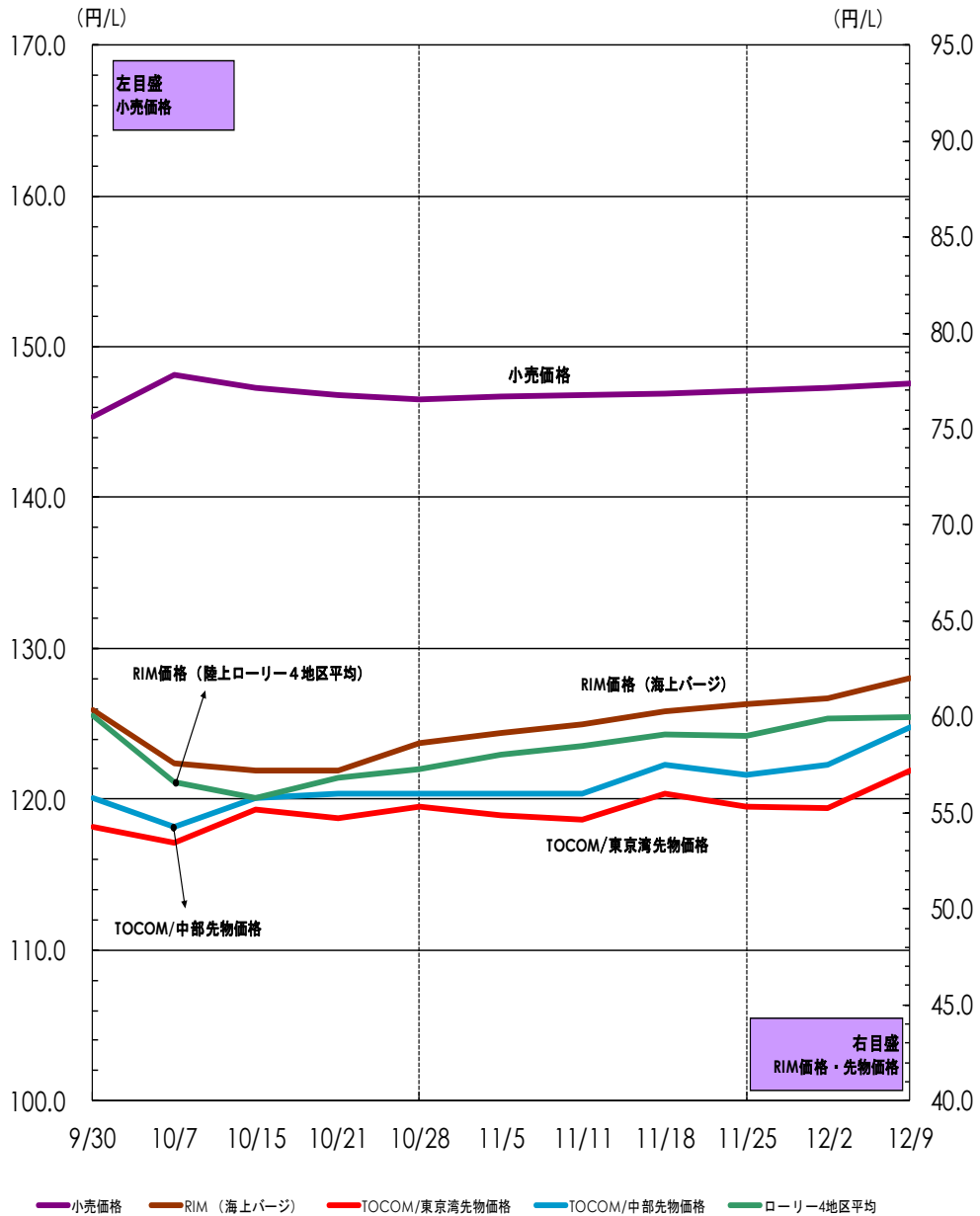
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/9/30 ~ 2019/12/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第36号)の公表は、12/20(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。